7　養護　問題用紙

（6枚のうち1）

受験番号		氏　名	

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

1　次の文章は、学校保健安全法施行規則第22条を示したものです。文章中の（ア）～（ク）に当てはまる語は何ですか。それぞれ書きなさい。なお、同じ記号には同じ語が入ります。

第22条　学校医の職務執行の準則は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　（ア）及び学校安全計画の立案に参与すること。

二　学校の（イ）の維持及び改善に関し、（ウ）と協力して、必要な指導及び助言を行うこと。

三　法第八条の健康相談に従事すること。

四　法第九条の（エ）に従事すること。

五　法第十三条の健康診断に従事すること。

六　法第十四条の疾病の（オ）に従事すること。

七　法第二章第四節の感染症の予防に関し必要な指導及び助言を行い、並びに学校における感染症及び（カ）の（オ）に従事すること。

八　校長の求めにより、救急処置に従事すること。

九　市町村の教育委員会又は学校の設置者の求めにより、法第十一条の健康診断又は法第十五条第一項の健康診断に従事すること。

十　前各号に掲げるもののほか、必要に応じ、学校における（キ）に関する専門的事項に関する指導に従事すること。

2　学校医は、前項の職務に従事したときは、その状況の概要を（ク）に記入して校長に提出するものとする。

2　学校におけるがん教育について、次の1～4に答えなさい。

1　次の文章は、学校におけるがん教育について述べたものです。下線部 ①～⑤ のうち、誤っているものを3つ選び、その数字と正しい語をそれぞれ書きなさい。

・がん教育は、①健康教育の一環として行う。
・平成28年12月に②健康増進法が改正され、「がんに関する教育の推進」について新たに条文が盛り込まれた。
・文部科学省は、学習指導要領に対応したがん教育を推進するため、教材、指導参考資料、③養護教諭活用のガイドラインの改訂、周知を行っている。
・がん教育の実施に当たっては、保健体育科を中心に学校の実情に応じて④教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。
・⑤第3期がん対策推進基本計画には、がん教育の取り組むべき施策として、ＩＣＴの活用の推進が明記されている。

2　「学校におけるがん教育の在り方について（報告）」（平成27年3月　「がん教育」の在り方に関する検討会）には、がん教育の目標が2つ示されています。どのような目標ですか。2つ書きなさい。

3　平成29年3月告示の中学校学習指導要領　保健体育　保健分野　3　内容の取扱い　(3)　には、「がんについても取り扱うものとする」と示されています。がんについて、生徒にどのようなことを理解させる必要がありますか。簡潔に2つ書きなさい。

4　がん教育の実施に当たっては、特に配慮が必要な児童生徒がいます。どのような児童生徒ですか。簡潔に書きなさい。

7　養護　問題用紙

（6枚のうち2）

受験番号		氏　名	

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

3　定期健康診断について、次の1・2に答えなさい。

1　次の表は、定期健康診断における項目、検診・検査、実施学年の一部を示しています。表中の聴力及び結核の有無の検診・検査は、小学校第1学年から高等学校第3学年までのうち、どの学年で実施することとなっていますか。下の【表記についてのルール】に従って、該当する学年の欄に「◎」「○」「△」を書きなさい。なお、当該学年で実施しない場合は空欄のままとしなさい。

項目	検診・検査	小学校						中学校			高等学校		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
聴力	オージオメータ												
結核の有無	問診・学校医による診察												
	エックス線撮影												
	エックス線撮影 ツベルクリン反応検査 喀痰検査等												
	エックス線撮影 喀痰検査・聴診・打診												
心臓の疾病及び異常	臨床医学的検査 その他の検査	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	心電図検査	◎	△	△	△	△	△	◎	△	△	◎	△	△

【表記についてのルール】　（公益財団法人日本学校保健会「児童生徒等の健康診断マニュアル（平成27年度改訂）」により作成。）

当該学年でほぼ全員に実施する場合には、「◎」を記載する。

当該学年で必要時又は必要者に実施する場合には、「○」を記載する。

当該学年で検査項目から除くことができる場合には、「△」を記載する。

2　結核の有無の検査における問診では、事前に6つの事項について確認します。6つの事項とはそれぞれどのようなものですか。書きなさい。

4　心臓に関する事項について、あとの1・2に答えなさい。

1　次の図は、心臓の構造を模式的に示したものです。図中の（ア）～（オ）は、何といいますか。その名称をそれぞれ書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

7　養護　問題用紙

（6枚のうち3）

受験番号		氏　名	

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

2　次の文章は、突然死の原因について述べたものです。文章中の（A）に当てはまる語は何ですか。書きなさい。

突然死の多くは、運動に伴って発生する致死的不整脈による「心停止」から起こると考えられています。しかし、基礎心疾患が事前に指摘されていない場合は、原因が特定されないことが多く見られます。また、近年、野球やサッカー等の球技や空手等の武道で、胸部をボール又はこぶしが直撃することによって死亡する事故が散見されます。これを（A）といいます。（A）では、前胸部、特に心臓の直上に加わった衝撃により致死的不整脈が起こります。

（「スポーツ事故防止ハンドブック（解説編）令和2年」により作成。）

5　救急処置について、次の1・2に答えなさい。

1　傷病時に、傷病者の症状に応じた体位を保つことは、症状の悪化を防ぐために有効です。次の ①～④ の傷病時にはどのような体位が適していますか。下の（ア）～（エ）の中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

①　意識はないが、普段通りの呼吸をしているとき

②　ぜん息や胸痛を訴えているとき

③　頭部にけがをしているとき

④　貧血や出血性ショックを起こしているとき

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

2　小学校第6学年の児童が教室で雑巾がけをしていた際、勢い余ってガラス扉に激突しガラスが割れ、児童の右前腕にガラス片が刺さり、大量に出血していました。学級担任から保健室へ電話があり、養護教諭が救急セットを持って駆けつけました。次の（1）・（2）に答えなさい。

（1）この児童の出血は続いており、救急車が到着するまでの間、止血点で圧迫することとします。どの動脈を圧迫しますか。動脈の名称を書きなさい。

（2）（1）のような救急処置を行う場合、素手で血液を扱うことを避けるために手袋をするなど、誰もが何らかの感染症をもっている可能性があると考えて対応します。このような考え方を何といいますか。カタカナで書きなさい。

7　養護　問題用紙

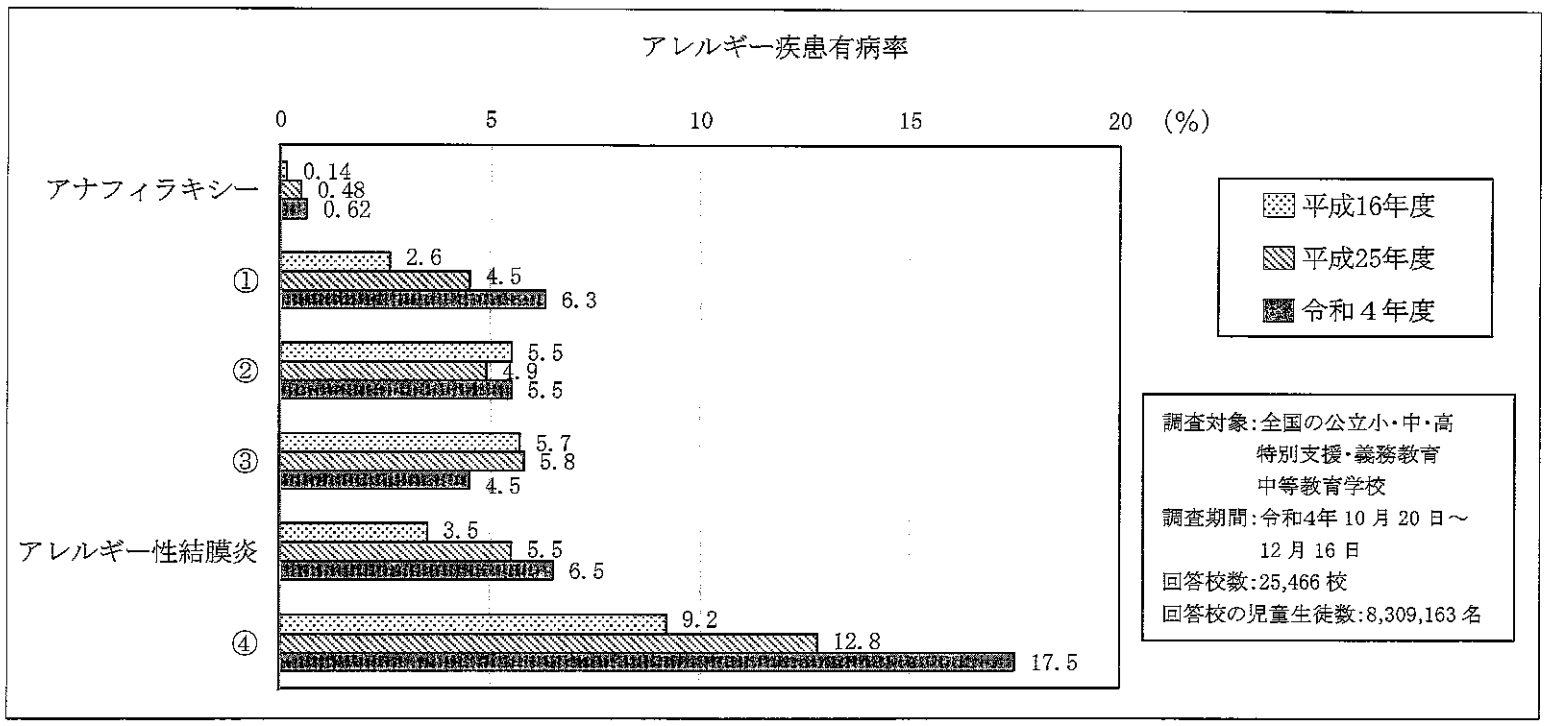
（6枚のうち4）

受験番号		氏　名	

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

6　児童生徒のアレルギー疾患について、あとの１～３に答えなさい。

1　次のグラフは、令和４年度「アレルギー疾患に関する調査報告書」（令和５年３月　公益財団法人日本学校保健会）に掲載されているアレルギー疾患有病率を示したものです。グラフ中の ①～④ に当てはまるアレルギー疾患は何ですか。下の（ア）～（エ）の中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。



（ア）ぜん息　　（イ）アレルギー性鼻炎　　（ウ）食物アレルギー　　（エ）アトピー性皮膚炎

2　次の資料は、養護教諭がアレルギーに関する救急対応をした際の記録の一部です。下の（1）・（2）に答えなさい。

【資料】

13：35　１年４組の生徒Ａが、保健体育科教諭Ｂに支えられ来室。
保健体育科教諭Ｂから、「５限目の授業で１ ㎞ 走った後、酷く咳き込み、倒れそうになっていた。今朝の部活動の朝練習で３ ㎞ 走った時は何もなかった。」と報告があった。
顔面蒼麻疹あり。喘鳴あり。小麦アレルギーがあり、エピペン®を預かっている生徒。本日の給食はうどんで、普段と同量のうどんを喫食した。入学後、うどんの喫食で症状が出たことはない。

13：36　嘔吐あり。会話困難となる。
養護教諭が、保健体育科教諭Ｂに校長への報告と救急車要請を依頼し、エピペン®を右大腿部に打つ。

13：37　血圧 82／48　養護教諭が、保健体育科教諭Ｂに保護者への連絡を依頼。

13：43　血圧 102／74　徐々に状態が改善される。呼びかけに反応し始める。

13：46　救急車到着。

（1）この記録から、この生徒はアナフィラキシーショックを起こしたと考えられます。このような状況で起こるアナフィラキシーを何といいますか。書きなさい。

（2）アドレナリン自己注射薬（エピペン®）を注射した後、しばらくすると状態が改善しました。それはなぜですか。アドレナリンのはたらきを踏まえ、次の３つの語を全て用いて、簡潔に書きなさい。

【　心臓　　血管　　気管支　】

7　養護　問題用紙

（6枚のうち5）

受験番号		氏　名	

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

3　次の資料１はアトピー性皮膚炎を有する小学校第４学年児童の「学校生活管理指導表」の一部を示したものであり、資料２（別紙）は外用薬を塗布する場所を示したものです。来週末に運動会を控え、今週から校庭で練習を行うこととしています。この児童が、運動会練習の期間、安全に活動できるようにするために、養護教諭としてどのような疾病管理を行うことが必要ですか。資料１・２を踏まえ、児童本人への対応、教職員への対応、環境整備について、それぞれ２つずつ書きなさい。

【資料１】

学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）

アトピー性皮膚炎（(ありに○)・なし）

病型・治療

A　重症度のめやす（厚生労働科学研究班）
1. 軽症：面積に関わらず、軽度の皮疹のみ見られる。
2. 中等症：強い炎症を伴う皮疹が体表面積の10%未満に見られる。
(3.) 重症：強い炎症を伴う皮疹が体表面積の10%以上、30%未満に見られる。
4. 最重症：強い炎症を伴う皮疹が体表面積の30%以上に見られる。
＊軽度の皮疹：軽度の紅斑、乾燥、落屑主体の病変
＊強い炎症を伴う皮疹：紅斑、丘疹、びらん、浸潤、苔癬化などを伴う病変

B-1　常用する外用薬
(1.) ステロイド軟膏・・・炎症の強い部位に塗布（別紙参照）
2. タクロリムス軟膏
（「プロトピック®」）
(3.) 保湿剤・・・全身塗布可能
4. その他　（　　）

B-2　常用する内服薬
(1.) 抗ヒスタミン薬　朝・晩２回
2. その他　［　　］

B-3　常用する注射薬
1. 生物学的製剤

学校生活上の留意点

A　プール指導及び長時間の紫外線下での活動
1. 管理不要　(2.) 管理必要　浸出液ある時はプール入水不可
屋外では長袖長ズボン着用

B　動物との接触
(1.) 管理不要　2. 管理必要

C　発汗後
1. 管理不要　(2.) 管理必要　発汗多い時は、シャワー浴又は濡れタオルで汗を拭きとること

D　その他の配慮・管理事項（自由記述）
ステロイド軟膏と保湿剤は、いずれもシャワー浴後に自分で塗布すること

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

7　高等学校第１学年の女子生徒が、２学期の始めに新体操部の部活動中に貧血を起こし、顧問に連れられて保健室に来室しました。しばらく休養した後、バイタルチェック等を行い体調が回復したことが確認できたため、帰宅しました。この女子生徒は、先日行った体重測定で、１学期の測定時より５ kg 減少しており、肥満度判定が「やせ」になったため、養護教諭は気になっていました。この女子生徒に対し、翌日、健康相談を行うこととします。次の１～３に答えなさい。

1　この女子生徒に健康相談を実施したところ、他の部員に比べて自分が太っていると感じ、無理なダイエットをしたことが分かりました。この女子生徒を支援するために、養護教諭としてどのような対応をしますか。生徒本人への対応とそれ以外の対応について、それぞれ２つずつ書きなさい。

2　複数回健康相談を行ってみると、この女子生徒にやせ願望があることや肥満に対する恐怖が強いことが分かりました。他の生徒がいない放課後の保健室で、本人に対して医療機関への受診を勧めることとします。養護教諭としてどのようなことに留意しますか。簡潔に２つ書きなさい。

3　今後、摂食障害が疑われる生徒がいた場合に早期発見できるよう、校内研修で摂食障害の特徴を説明することとします。どのような特徴がありますか。心理面での特徴と行動面での特徴について、それぞれ２つずつ書きなさい。

7　養護　問題用紙

（6枚のうち6）

受験番号		氏　名	

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

8　学校において予防すべき感染症について、次の１・２に答えなさい。

1　次の表は、学校保健安全法施行規則第 19 条第２項に定められている出席停止の期間の基準の一部を示したものです。下の（1）・（2）に答えなさい。

感染症名	出席停止の期間の基準
百日咳	（エ）まで又は五日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。 ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
流行性耳下腺炎	（オ）まで。 ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
（ア）	発しんが消失するまで。 ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
（イ）	すべての発しんが痂皮化するまで。 ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
（ウ）	主要症状が消退した後二日を経過するまで。 ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
新型コロナウイルス感染症	（カ）まで。

（1）表中の（ア）～（ウ）に当てはまる感染症名をそれぞれ書きなさい。

（2）表中の（エ）～（カ）に当てはまる内容をそれぞれ書きなさい。

2　「学校における麻しん対策ガイドライン　第二版」（平成 30 年２月　国立感染症研究所感染症疫学センター）に示されている学校における麻しん発生時の対応について、次の（1）・（2）に答えなさい。

（1）ある中学校で、生徒１名が麻しんに罹患しました。麻しん患者が発生したことについて、関係者・関係機関へ連絡した後、学校が行うべき感染拡大防止策は何ですか。簡潔に３つ書きなさい。

（2）１人目の麻しん患者発生以降、講じてきた対策を終了する時期を決定するには、ある要件が満たされる必要があります。ある要件とは何ですか。簡潔に書きなさい。

養護採点基準

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

<table>
<tr><th colspan="2">問題番号</th><th colspan="2">正　　答　〔例〕</th><th>採点上の注意</th><th colspan="2">配　点</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="8">1</td><td>（ア）</td><td>学校保健計画</td><td rowspan="8"></td><td rowspan="8">各
2
×
8</td><td rowspan="8">１６</td></tr>
<tr><td>（イ）</td><td>環境衛生</td></tr>
<tr><td>（ウ）</td><td>学校薬剤師</td></tr>
<tr><td>（エ）</td><td>保健指導</td></tr>
<tr><td>（オ）</td><td>予防処置</td></tr>
<tr><td>（カ）</td><td>食中毒</td></tr>
<tr><td>（キ）</td><td>保健管理</td></tr>
<tr><td>（ク）</td><td>学校医執務記録簿</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2</td><td rowspan="3">1</td><td>数字</td><td>正しい語</td><td rowspan="3">数字と正しい語がともに合っているものだけを正答とする。</td><td rowspan="3">各
3
×
3</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>②</td><td>がん対策基本法</td></tr>
<tr><td>③</td><td>外部講師</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>第４期がん対策推進基本計画</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">がんについて正しく理解することができるようにする
健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする</td><td>順序は問わない。
内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。</td><td>各
3
×
2</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">・がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること。
・がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であること。
・がんは、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できること。</td><td>２つ書かれていればよい。
内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。</td><td>各
4
×
2</td><td rowspan="2">２６</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">・小児がん治療中の児童生徒
・小児がんにかかったことのある児童生徒
・家族にがん患者がいる児童生徒
・家族をがんで亡くした児童生徒
・がんに限らず重病・難病等にかかったことのある児童生徒
・家族に重病・難病等の患者がいる児童生徒
・家族を重病・難病等で亡くした児童生徒</td><td>１つ書かれていればよい。
内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>3</td><td>1</td><td colspan="2">項目　検診・検査</td><td colspan="6">小学校</td><td colspan="3">中学校</td><td colspan="3">高等学校</td><td rowspan="5">検診・検査ごとに全部合っているものだけを正答とする。</td><td rowspan="5">各
3
×
5</td><td rowspan="5">２７</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>聴力</td><td>オージオメータ</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>△</td><td>◎</td><td>△</td><td>◎</td><td>△</td><td>◎</td><td>◎</td><td>△</td><td>◎</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td rowspan="3">結核の有無</td><td>問診・学校医による診察</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>エックス線撮影</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>エックス線撮影
ツベルクリン反応検査
喀痰検査等</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>エックス線撮影
喀痰検査・聴診・打診</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>

養護採点基準

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正　　答　〔例〕	採点上の注意	配点	
3	2		本人の結核罹患歴 本人の予防投薬歴 家族などの結核罹患歴 高まん延国での居住歴 自覚症状 ＢＣＧ接種歴	順序は問わない。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各2×6	
4	1		（ア）右心房		各3×5	18
			（イ）三尖弁	右房室弁　もよい。		
			（ウ）僧帽弁	左房室弁、二尖弁　もよい。		
			（エ）左心室			
			（オ）心室中隔			
	2		心臓震盪	心臓振盪　もよい。	3	
5	1		①（エ） ②（ア） ③（イ） ④（ウ）		各2×4	14
	2	（1）	上腕動脈		3	
		（2）	スタンダード・プリコーション	スタンダード・プレコーション　もよい。	3	
6	1		①（ウ） ②（エ） ③（ア） ④（イ）		各2×4	39
	2	（1）	食物依存性運動誘発アナフィラキシー		3	
		（2）	アドレナリンには、心臓の働きを強めたり末梢の血管を収縮させたりして血圧を上げ、また、気管支を拡張させ呼吸量を増加させる作用があるから。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	4	

養護採点基準

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正　　答　〔例〕		採点上の注意	配点	
6	3	児童本人への対応	・汗を放置すると皮膚炎を増悪させ、発汗や体温の上昇があるとかゆみが増強することから、汗をかいた後は、医師の指示通り、シャワー浴や汗拭きを行い、薬の塗布を行うよう再度指導する。 ・長時間の屋外での活動になるため、適宜、テント等日陰で休憩するよう指導する。 ・汚れた体育着をそのまま使用することは症状の悪化につながるため、必ず着替え、汗やホコリで汚れた体育着は毎回洗い、常に清潔な状態で着るよう指導する。 ・症状や学校での対応について保健室でいつでも相談できることや、必要に応じて救急処置ができることを伝える。	それぞれ２つ書かれていればよい。 問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	各4×6	
		教職員への対応	・教職員全体に対し、当該児童は屋外では長袖長ズボンの着用が必要であることやシャワー浴や薬の塗布が必要であること、薬を預かる場合の保管場所等を周知する。 ・学級担任や授業担当者に対し、当該児童の屋外での服装をその都度確認するよう依頼する。 ・学級担任や授業担当者に対し、当該児童の授業中や学級での活動、休み時間の様子を観察するとともに、急な変化が見られた場合は速やかに養護教諭に伝えるよう依頼する。 ・学級担任に対し、当該児童は目につきやすい箇所に炎症が生じるため、校内での個別対応や周囲の協力が必要であることをあらかじめクラスの児童に伝えておくことについて、本人や保護者の意向を確認するよう依頼する。 ・学級担任に対し、クラスの児童が当該児童への対応を通じて、人にはそれぞれ健康上の特徴がありそのために特別な対応が必要な場合があることや、お互いの思いやりが大切であるということを適切に理解できるよう、指導を依頼する。			
		環境整備	・保健主事と連携し、配慮を要する児童の情報を全教職員が共有できる機会（職員会議等）を企画・運営するなど、教職員一人一人が適切な対応や配慮事項を理解して組織的に対応できる体制整備を行う。 ・紫外線による症状悪化を防ぐため、休憩時間等の待機場所のためにテント等を設営する。 ・臀部にも外用薬を塗布する必要があることから、保健室内に、自分で薬を塗ったり、汗で汚れた下着や衣服の着替えを安心してできるよう、カーテンや衝立などで仕切ったプライベートスペースを作る。 ・かゆみが生じた部位を冷やすことで症状を和らげることができるため、濡らしたタオル、保冷剤などを保健室の冷蔵庫に常備しておく。			
7	1	生徒本人への対応	・定期的に来室させ、心拍数や血圧を測定しながら、話せる関係づくりを行う。 ・それまでの体重の経歴や、成長曲線、肥満度曲線を示し、急に体重が減っていること、やせが病的であることを視覚的に理解させる。 ・体調が悪い時や困ったことがあったら、いつでも保健室に来てよいことを伝える。 ・身体の状態に目を向けさせるために、思春期の生徒が気にするような症状（月経、髪の毛が抜けてくる、肌がカサカサになる等）を話題にする。 ・長期的な対応となることが多いため、治る過程の辛さを理解し、本人に寄り添った対応をする ・学校医の健康相談や、スクールカウンセラーの面談につなげ、専門家からの話を聞く機会を作る。	それぞれ２つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各3×4	30

養護採点基準

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正　　答　〔例〕		採点上の注意	配点	
7	1		それ以外の対応	・校内で連携チームを立ち上げ、管理職、学級担任、部活動顧問等と情報を共有し、見守り体制を作る。 ・スクールカウンセラーに情報共有し、必要な時に協働できる体制をつくる。 ・保護者に体調不良が気になることを伝えて面談する。 ・学級担任、保護者等から、食事量や月経の状態、睡眠状態等の情報を収集する。 ・学校医に相談し、学校医の了承のもと治療勧告書を発行する。			
	2			・からだの症状を話題にし、こちらの心配を伝える。 ・本人の困っていることに焦点を当てる。 ・摂食障害だと決めつけない。 ・受容的態度を心掛け、受診への動機づけを行う。 ・心理的問題を強調しすぎない。 ・緊急時は適切な対応をとることを伝える。	2つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各3×2	
	3		心理面での特徴	・やせ過ぎていることやからだの不調の認識に乏しい。 ・自己評価が体重や体形に極端に左右される。 ・体重やカロリー数への過剰なこだわりがある。 ・太ることや体重が増えることへの恐怖が強い。 ・お腹がすいていることがわからなくなる。 ・ダイエット者は体重減少に達成感を持つが、摂食障害の場合はいくらやせても達成感が乏しい。 ・周囲から食べろという圧力をかけられていると思っている。 ・食べた後に過剰な罪悪感を持っている。	それぞれ2つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各3×4	
			行動面での特徴	・体重を減らすための行動の歯止めがきかない。 ・大量に食べたり、隠れて食べることがある。 ・排出行動（下剤乱用・嘔吐）を伴う。 ・学業や部活動の成績の急激な変化を伴う。 ・自傷行為を伴う。 ・過活動（体重が減ってやせているにもかかわらず、過剰な身体活動を行う）を伴う。 ・ダイエットをやめた方がいいといった周囲の忠告を聞かない。			
8	1	（1）	（ア）	風しん		各3×6	30
			（イ）	水痘			
			（ウ）	咽頭結膜熱			
		（2）	（エ）	特有の咳が消失する			
			（オ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後五日を経過し、かつ、全身状態が良好になる			
			（カ）	発症した後五日を経過し、かつ、症状が軽快した後一日を経過する			
	2	（1）		・情報の収集 ・生徒及び保護者への情報提供 ・生徒の出席停止および学校の閉鎖措置の決定 ・学校行事の延期や対外試合の自粛の検討	3つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各3×3	
		（2）		最後の麻しん患者と生徒・職員等との最終接触日から、4週間新たな麻しん患者の発生が見られていないこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	3	